

日本語の音韻と旋律の関係について

On the Relation between Japanese Accents and Melodies

学籍番号：201321640

氏名：堤 彩香

Ayaka TSUTSUMI

本研究では、歌詞のアクセントと旋律の関係について調査した。楽曲を聞く際に、歌詞が聴き取りやすい／聴き取りにくいもの、また歌いやすい／歌いにくいものがあるのは我々が日常的に感じることである。例えば、わらべ歌や民謡のような生活に密着して生まれてきた歌は、日常的な発声や音韻を踏まえ、さらに口承で伝えられてきたことから、歌詞とメロディが密接に結びつき、自然で歌いやすいと考えられる。これらの曲や旧来の歌謡曲などに対し、いわゆる J-POP をはじめとする現在の曲では、歌詞とメロディの関係が希薄になっているとされている。そのことの是非はさておき、その結果として歌詞が聴き取りにくい、(特に年長者には) 歌いにくいといったことにつながりうる。

歌の自然さ、歌いやすさには、他にもメロディやリズムの複雑さ、歌詞の内容や複雑さなど、様々な要因が考えられるが、本研究では歌詞のアクセントとメロディに注目し、その関係を調査をした。日本語は高低のアクセントを持つ言語である。強弱の違いで語を区別する英語とは異なり、日本語は音の高低で語の意味を区別しているため、日本語は語そのものが簡単なメロディを持つと言える。それでは、楽曲の旋律と言葉のアクセントとはどのように関係があるのだろうか。対象とした楽曲は子どもの歌である童謡・唱歌と、大衆音楽である演歌で、歌詞は標準アクセントを用いてアクセント型ごとに分類した。

まず、アクセント変化のある部位のみに注目して調査を行ったところ、全般として上昇部分より下降部分の方がメロディへの反映の度合いが高かった。日常の語の発音の際でも、上昇アクセントに比べて下降アクセントの方が重視される傾向があることから、それがメロディにも反映されていると考えられる。次に、アクセント型全体としてメロディがアクセントを反映しているかの調査では、童謡が最も反映度が高く、続いて唱歌、演歌の順となった。これは、その楽曲を親しむ年齢層に関係すると考えられる。

しかし、ここで得られた結果は一部の楽曲を調査した結果である。今後の課題として、より多くの楽曲の調査や、J-POP などの他ジャンルの楽曲の調査を行い、比較することで特徴を明らかにすることを目指す。

研究指導教員：平賀譲

副研究指導教員：森田ひろみ

